

Y10c **動き始めた計算基礎科学連携拠点**

吉戸智明、青木慎也(筑波大)、牧野淳一郎(天文台)、橋本省二(KEK)

計算基礎科学連携拠点は、計算科学の推進のために、素粒子・原子核・宇宙3分野の計算科学研究者と計算機科学研究者が協力して計算科学研究を行う機関である。各分野の最先端だけでなく、分野融合的な計算科学研究、新たな計算科学のアイデア創出、次世代の計算機開発、人材養成などを行う。計算基礎科学分野でこれまで世界をリードしてきた、筑波大学計算科学研究センター、高エネルギー加速器研究機構、国立天文台の3者が協力することで、より活発な研究体制の構築をめざす。

連携拠点の最初のプロジェクトとして、2009年度は、次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム分野5「物質と宇宙の起源と構造」実施可能性調査を行った。今年度は、戦略プログラムの本格実施に向けて体制を整えていく。

計算基礎科学連携拠点の目的と体制、次世代スパコン戦略プログラムの計画について紹介する。